



平成 27 年 10 月 30 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 U M N フ ァ ー マ
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 平 野 達 義
 (コード番号：4585 東証マザーズ)
 問 合 せ 先 取 締 役 財 務 部 長 橋 本 裕 之
 電 話 0 4 5 - 5 9 5 - 9 8 4 0

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 27 年 6 月 5 日に公表した平成 27 年 12 月期（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日）の連結及び個別の通期業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成 27 年 12 月期 通期連結業績予想数値の修正（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,254	△1,697	△1,844	△1,852	△193 54
今回修正予想 (B)	222	△3,224	△3,404	△3,405	△355 87
増減額 (B-A)	△2,032	△1,527	△1,559	△1,553	—
増減率 (%)	△90.1%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 12 月期)	1,108	△3,942	△4,249	△3,961	△452 34

2. 平成 27 年 12 月期 通期個別業績予想数値の修正（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,206	199	196	20 50
今回修正予想 (B)	195	△648	△652	△68 16
増減額 (B-A)	△2,010	△848	△848	—
増減率 (%)	△91.2%	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 12 月期)	1,108	△2,820	△2,822	△322 29

3. 業績予想の修正理由

(1) 連結業績予想

UMN-0502（組換えインフルエンザ HA ワクチン（多価）、以下、「UMN-0502」といいます。）について、平成 26 年 5 月に提携先であるアステラス製薬株式会社が、インフルエンザの予防の効能・効果で、厚生労働省に対して製造販売承認申請を行い、審査対応を共同で進めております。

審査の実施主体は、平成 27 年 2 月 13 日開示「平成 26 年 12 月期決算短信〔日本基準〕（連結）1. 経営成績・財政状態に関する分析 (4) 事業等のリスク ①医薬品開発に関する一般的リスク a) 医薬品開発の不確実性について」に記載のとおり、独立行政法人医薬品医療機器総合機構であります。UMN-0502 の承認

審査に関する同機構からの照会事項に対し、アステラス製薬株式会社とともに真摯に対応しております。かかる審査の進捗状況に鑑み、当連結会計年度中の承認取得は困難との判断に至りました。結果、アステラス製薬株式会社との契約に基づくマイルストーン収益の計上が、平成 28 年 12 月期へずれ込むことが確実となりました。また、合せて当連結会計年度において受注していた受託業務のうち、一部について検収が平成 28 年 12 月期にずれ込む見通しとなったことから、平成 27 年 12 月期の売上高の予想を下方修正いたしました。

一方、費用面におきましては、当社技術導入元である Protein Sciences Corporation への製造販売承認取得時のマイルストーン収益に係るロイヤリティの支払が減少し、またその他固定費及び一般管理費等の費用の更なる見直しを行った結果、費用減少が見込まれるものの、岐阜工場の維持費用及び審査対応に係る試験研究費が一定程度発生することから減収の影響を吸収しきれない結果、営業損失、経常損失及び当期純損失が前回予想と比べ拡大する見込みであります。

なお、平成 27 年 2 月 13 日開示「平成 26 年 12 月期 決算補足説明資料」の P29 に記載している「平成 27 年度～平成 30 年度中期経営計画 連結損益計画」の前提である平成 28 年 12 月期からの日本国内での UMN-0502 商用生産開始の見通しは変えておりません。今般の業績予想の主な修正要因となるマイルストーン収益、ならびに受託業務に係る収益は、平成 28 年 12 月期業績に計上される見込みであり、来期の増収増益要因と認識しております。別途準備を進めている米国市場向け原薬輸出事業等その他の要因を総合的に勘案し、新たに中期経営計画を策定した時点で改めて公表させていただきます。

(2) 個別業績予想

平成 27 年 12 月期の売上高の減収要因は、連結業績予想に記載のとおりであります。

一方、費用面におきましては、連結業績予想の記載のとおりであります。減収の影響を吸収しきれない結果、経常損失及び当期純損失を計上する見込みとなりました。

当社グループは、ステークホルダーの期待に応えるべく、また国民の皆様の健康に資する安全な製品を供給すべく、当局による UMN-0502 審査の対応に経営資源を集中的に投じ、中長期における企業価値向上の責務を果たしてまいり所存でございます。

(注) 上記業績予想数値につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成しており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以上